

抗セントロメア抗体陽性患者のIVUSによる血管的特徴

中田 文¹、福永 匡史²

¹森之宮病院、²森之宮病院

【はじめに】難治性創傷を有する患者群の中には動脈硬化性病変を基盤とする CLTI 患者や血管炎、膠原病といった病態は異なるが臨床像は似ている潰瘍、壞死が混在する。抗セントロメア抗体陽性の足趾潰瘍患者は診断される機会も乏しく、血行再建時の反応やその後の治療経過で疑われる場合がある。今回、EVT 時における抗セントロメア抗体陽性患者と CLTI 患者の特徴を、IVUS 所見で比較検討したので考察を含めて報告する。【方法】2014 年 1 月から 2024 年 11 月までに IVUS を用いて EVT を施行した抗セントロメア抗体陽性患者と非強皮症患者、78 症例に対して IVUS による血管評価を後ろ向きに評価した。【結果】抗セントロメア抗体陽性患者では、非強皮症患者に比べて外膜周囲の高輝度所見が有意に多く認められた ($p<0.001$)。また、石灰化については非強皮症患者で有意差がみられた ($p=0.006$)。さらに、抗セントロメア抗体陽性患者では内膜肥厚よりも中膜の線維化が顕著であり、動脈硬化主体とは異なる IVUS 所見を呈していた。【結語】EVT 施行時における IVUS による血管評価は、抗セントロメア抗体陽性患者の存在を予測する有用な手段となり得る。